

CONTENTS

広報

ななほ

2010 No.65

2

● 目次

- 2 ひと人ヒト (北永真治さん)
- 3 特集  
「人と向き合い、命と向き合う。」  
～心をゆさぶる「赤ちゃん力」～
- 8 平成22年七尾市成人式
- 10 能登和倉万葉の里マラソン2010
- 12 と～くあばうと／市長談話室／  
ななこちゃんのエコ生活
- 13 市民相談／ケーブルテレビ番組情報
- 14 情報ランド (お知らせ)
- 20 まちの顔
- 22 伸ばせ！七尾っ子プロジェクト／  
児童館へ行く
- 23 イベント情報
- 24 休日医療情報／不用品活用銀行
- 25 みんなの本棚／有料広告募集
- 26 オーケストラ・アンサンブル金沢  
七尾定期公演／わが家のアイドル

今月の表紙

毎年恒例となった、新成人(実行委員会)自らが企画・運営する七尾市成人式。今年の新成人はすべてが平成生まれ。まさに新しい時代の幕開けを象徴する式だった。他の自治体と比べて、七尾市は新成人の出席率が高いと聞いたことがある。それだけふるさとを想う人が多いということか。それぞれの事情で生まれ育った場所で生活できない人も多いだろうが、どこにいてもふるさとを想う心だけは忘れないでほしい。大きな夢を抱き、それぞれの道を歩みながら…。  
(※8～9ページに関連記事)

ひと

ヒト

# 氷彫刻世界大会で銅メダル

北永<sup>きたなが</sup>真治<sup>しんじ</sup>さん(47歳) 能登島向田町



1対の鳳凰をかたどった作品「エンペラーパード」と北永さん(写真提供:北永さん)

「銅メダルという結果は正直悔しいが、審査員から日本人が参加したことで大会全体の質が高まったと言われたことがうれしかった」。1月4日からロシアで開かれていた氷彫刻競技の世界大会「ロシアグランプリ」(モスクワとサンクトペテルブルグで行われた2つの大会の総合成績を競う大会)で銅メダルに輝いた、料理人の北永さんは大会を振り返る。

福井県の高校卒業後、料亭で本格的に料理人を目指した北永さんは、21歳の時に「ホテルへ手伝いに行つて来い」と言われ、そこで氷彫刻に出会った。「自分でもできるようになりたい」と思い、氷彫刻の第一人者、清水三男さんに弟子入り。以来、氷彫刻に情熱を注ぐ。

1次書類審査(デッサン)を通過し、現地入りした北永さんは、世界8カ国を代表する9人のプロの彫刻家を

相手にその力を存分に発揮した。だが、その過程は容易なものではなかった。マイナス30度という過酷な気象条件。作品の製作は24時間以内。電動工具の相次ぐ故障で作業工程の大幅な変更を余儀なくされるなど「特に今回は精神的にきつかった」と本音がこぼれる。

モスクワでの会場は「赤の広場」、サンクトペテルブルグではあの世界3大美術館のひとつ「エルミタージュ美術館」。過去にも世界的な大会で数々の賞を受賞した北永さんだが「出場できるだけでも名誉な大会」と話す。「道楽」と言われる時もあるが、世界を代表する美術館が氷彫刻を「芸術品」と評価してくれたことに価値がある」と重みをかみしめる。

次の目標を尋ねると「あまりガツガツせず、大会を選んで参加したいね」と微笑んだ。

特集

# 人と向き合い、 命と向き合う。

～心をゆさぶる「赤ちゃん力」～

ある日、小学校に赤ちゃんがやってきた。

赤ちゃんとのふれあいを通して大きく成長した子どもたち。

子どもたちはそこで何を学び、感じたのか。

子どもだけではなく、大人まで変えてしまうといわれる「赤ちゃん力」とは。

今回、高階小学校で行われた「赤ちゃん登校日授業」をレポートする。

「赤ちゃん登校日授業」

場所: 高階小学校

主催: いしかわ子育て支援財団など